

2022.09.03 地域連携×緩和ケア

がんと付き合う患者さまを  
 ♥️こころ落ち着く場所で  
 ♥️こころ安らかに  
 ♥️こころ思うままに…  
 心を込めてサポートします



がんと付き合う患者さまが抱く、  
 “最期は自宅で”という思いを支援し、  
 病院と同じような療養生活が送れるように  
 医療サポートさせていただきます。  
 また、患者さまだけでなくご家族の抱える  
 不安の対応や、後悔のないように患者さまや  
 ご家族が無理なく介護できるような  
 サポートも行っています。  
 最期まで笑顔を絶やさず、心の通う医療を  
 行います。



医療法人綾正会 かわべクリニック  
 看護師 川邊綾香



## 娘様の電話相談内容

X月Y日（土）**13時**  
 娘さんから電話連絡あり。

初めまして、今よろしいですか？  
 父が、A病院で白血病の治療中なのですが、コロナの影響で面会制限があり、ほとんど会いに行けていません。  
 大きな変化があると主治医から電話で病状説明があり、  
 先週の時点では、抗癌剤治療をしないと説明を受けていました。



さっき病院から電話があつて、病状が変化した。痛みとせん妄がひどくなり、麻薬の量を増やしたら、もう二度と意識が戻らない可能性がある。命があと数日かもしれないとも言われました。面会制限があるので、孫を病院に連れて行くこともできないし・・・。  
父と電話で話をしたら「今までありがとうな」と言われたんです（号泣）。私は孫に会わせたい。  
生きている間に連れて帰りたい。  
無理でしょうか？



娘さんの気持ちはわかるけど、紹介状もなく、急な依頼にさすがに・・・けど、「無理でしょうか？」と言われて、無理とも言いにくい・・・。  
状況として、明らかに準備が整っておらず、安全に帰宅することが難しいかな・・・。  
コロナの影響はここまで来ているのか。  
終末期の患者さまでさえ、  
面会制限があるのか・・・。



依頼電話から1時間後  
病院主治医よりクリニック医師に対して電話での  
情報提供あり。

### <主治医からの情報>

白血球 300、血小板 5.8万で昨日血小板輸血施行。  
感染症が悪化してこのまま急変して最期を迎える可能性  
がある。せん妄と疼痛の悪化に伴い、  
鎮痛剤を持続皮下注射でコントロール中であり、  
在宅でも継続を希望。鎮静も考えている。



### 私のとった行動

家族に改めて病状を説明して上で、自宅に連れて帰る気  
持ちの強さを知ること。  
患者さん、家族さんの気持ち「最期は自宅で」「自宅に  
帰りたと思った時が退院するとき」という希望をかな  
えるため、少しでも役立てればと動き出す！



## 在宅医療・介護の連携の力を発揮！

- ①在宅酸素の設置(在宅酸素機器会社)  
→自宅と病院に酸素ボンベの設置
- ②在宅訪問薬剤師の依頼  
(休日対応、麻薬ミキシングを含む、訪問薬剤師)
- ③麻薬持続皮下注射の器械の手配 (医療機器会社)
- ④介護タクシーの依頼(ケアマネージャー)



最期の時を一緒に過ごしたい・・・

私たちにできることは何でしょうか？



どのような状況であったとしても、私たちは人生の最終段階にある方の支えとなることが求められている。私たちに出来ることは、その人の苦しみをキャッチして、支えとなり、選ぶことの出来る自由を叶える。

人は迷うもの、正しい答えもない。

共に話し合い、

ACP：人生会議を何度も行い、  
支え続けることが必要である。



## 私たちに求められるものとは？



- 日頃から顔の見える関係を築く
- お互いの得意分野を知る
- 得意分野を活かす
- どんなネットワークがあるのか情報共有する



家の力を信じる！

ご静聴ありがとうございました。



今回の発表動画  
YouTube  
チャンネル登録をお願いします！

